

令和7年度 期末評価結果

<p>共同利用・ 共同研究拠点名</p>	<p>問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点</p>
<p>大学等名 (研究施設名)</p>	<p>中部大学（中部高等学術研究所国際GISセンター）</p>
<p>評価区分 (期末評価結果)</p>	<p>A</p>
<p>評価コメント</p>	<p>本拠点は、GIS、デジタルアース、ジオインフォマティクスを研究し膨大な地理空間情報を取扱い、三次元や時系列の地球を実時間で表現することを可能にするデータベースやツールの開発とその応用研究を行い、「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」として活動することを目的に拠点活動を実施している。拠点としての活動は概ね順調に行われており、関連コミュニティへの貢献もあり、今後も、共同利用・共同研究拠点を通じた成果や効果が期待される。</p> <p>デジタルアースを中核として、分野横断的・融合的研究を推進し、学術面のみならず社会実装の面でも貢献するとともに、国際プロジェクトへの参画も行うことで研究活動の成果を地域社会・国際社会へ還元している。</p> <p>一方、視覚的な「地球のデジタル化」が一般化してきた中、デジタルアースという研究分野における研究成果の更なる創出やその成果の発信について、改善の余地がある。</p> <p>拠点から認定の更新の希望はなかったところであるが、これまでの拠点活動において得られた知見や人的ネットワーク等が、引き続き、当該研究分野の発展に役立てられていくことを期待したい。</p>